

すまいる一ふ参加団体の紹介 高崎経済大学大宮研究室



すまいる一ふに参加している団体を紹介するコーナーを始めます。NPO法人DNAと高崎経済大学の大宮研究室が協働して、取材とその結果をまとめて、HPに順次掲載していきます。

目的は参加団体の活動をよく知っていただき、さらに多くの参加を集うためです。

学生たちのレポートです。楽しみにしてください。



取材の風景

2015年9月30日(水)



取材の主な項目は、以下の3点です。

1. 団体の概要
2. すまいるーぷの取り組み実績
3. すまいるーぷへの期待と展望

自由に語ってもらいました。



TAKASAKI FOOD RECYCLE LOOP PROJECT



1-1 高崎経済大学 大宮研究室の概要

1996年、日本で初めて高崎経済大学に地域政策学部を開設。開設以来大宮研究室は「地域づくりは人づくり」をミッションとして地域政策、地域づくりに携わってきました。2004年からはNPO法人DNAを設立して活動を展開。今年度で12年目を迎え、そこから多くの活動が生まれています。

<代表的な活動>

- (1)若者社会活動支援NPO法人DNA
- (2)日中友好さくらプロジェクト
- (3)一般社団法人ぐんま食品リサイクルすまいる一歩協議会
- (4)京丹後市域学連携事業
- (5)熱血！高校生販売甲子園…



1-2 大宮研究室の概要

一人ひとりがばらばらになりがちな
個人化する日本社会の危機を乗り越える

若者社会活動支援 **NPO法人DNA**の活動

◆ 若者の社会力、協働力、社会人基礎力を育てる

- ・社会性豊かで社会に関わる人間(社会力)
- ・自立した市民として社会で活躍する人間(社会人基礎力)
- ・協働できる人間(協働力)

◆ 地域アイデンティティの形成を図る

- ・地域への愛着を育てる、役割意識、公共意識



1-3 DNAをつくった3つの理由

1. 個人的な生き方の経緯・理由（価値観）

2. 社会状況の認識（個人化社会の負の克服）

3. PBL（Project Based Learning）の手法

DNAをつくった3つの理由 その1


大宮登の生き方（価値観）としてのDNA設立

- ・ 25歳から45歳まで短期大学で仕事に携わる。
- ・ 短大時代は教育8割、研究2割。事務局も経験。
- ・ 母校である大学の新設地域政策学部に45歳で異動。
- ・ 自分の役割と強みを以下の3つに位置づける。
①教育力、②マネジメント力、③地域連携力
- ・ 特に、**教育に力を注ごう**。短期大学で積み上げてきた教育実践を大学で行ったらどのような成果が出るのかを模索してきた20年。



DNAをつくった3つの理由 その2

社会状況の認識（**個人化社会の負の克服**）

- 個人化する社会は、マイナス要素として、個々人をバラバラに孤立させてしまう。
 - 人と関わらない人間は成長しない。
 - 社会力（人や組織に積極的に関わる力）をつける。
 - キャリアデザイン力（人生を考え、設計していこうとする力）をつける。
 - コミュニケーション力、人間力、対話力、協働力、組織力、社会人基礎力をつけるための場づくり。
- 

個人化の危機という社会認識

- 個人化する社会は、孤独な子育て環境のなかで起きる育児ノイローゼ、育児放棄、不登校、引きこもり、NEET、孤立無業、老人の孤独死、無縁社会など、個々ばらばらになった社会の弊害を生みだしている。
- 日本社会は、幼児から高齢者まで、どのように社会的諸関係をもつことができるのかが、重要な社会的課題となっている。



DNAをつくった3つの理由 その3

PBL (Project Based Learning) の手法

- **チームで** (一人の活動ではない、組織を作って行う、協働体験で学ぶ)
- **現場で** (大学を出て、現実の職場や活動を行う)
- **主体となって** (自分が主人公となって責任を取って行動する)
- **多くの交流の中で** (多くの大人や組織との交流を経験する)
- **試行錯誤の能動的体験を繰り返す。**

•全国から注目される→日経新聞、読売新聞、三菱総研……



1-4 大宮ゼミ教育活動のポイント

大宮ゼミの活動のポイントは5つです。

①チーム(組織)で

- ・個人プレイではなく協働体験を重視する

②現場(臨床)で

- ・フィールドでリアルな経験を行う

③主体性(役割)を持って

- ・学生が当事者意識を持って行う

④多くの交流の中で

- ・他大学の学生や多くの大人たちとの交流を重ねる

⑤試行錯誤を繰り返す

- ・失敗体験、成功体験を積み重ねる



富岡元気フェスタ 2014・5・17



みのわの里の狐の嫁入り 2014・10・5



万灯会、吉井祭り、高崎散策・・・



靴モールイベント参加と小布施町訪問

2015年7月



1-5 実践的教育プログラムの開発 (アクティブラーニング)

- 学生達は実践的課題を持つ社会活動に参加することによって、地域社会への関心を持ち、地域課題の所在を知り、地域づくりの担い手として大きな成長を遂げている。
- 今日の若者たちは、現代社会の構造上、孤立しがちな行動特性を持つ。しかし、多様な社会活動に参加し、多くの大人と出会うことによって、社会性を獲得し、目標となるモデルを発見する。
- その活動を通して、彼らは地域に専門的で実践的なサービスを提供し、同時にコミュニケーション、対人折衝、企画、マネジメント、マーケティング等の能力を実践の場で学んでいく。

・DNAから生まれた事業(留学生)

桜と緑の植樹プロジェクト

中国湖南省蒋家村との植樹と文化交流事業

私たちは、高崎経済大学卒業後、現在群馬県の企業で働いている中国人、蒋雄軍さんの人柄と熱意に魅了され、蒋さんの故郷中国湖南省蒋家村に、桜を植える活動を応援してきました。これまで、10年間の活動で約10万本（松3万本、椿5万本～6万本、ゆず5千本、桜3000本、楠400本など）が、植樹されてすくすくと育っています。



2-1 大宮研究室のすまいる一ぷ活動実績

- 植物性循環資源(野菜くず等)を利用した県内初の民間飼料化プラント計画が始まる
- プラント計画を受け、大宮研究室が参加していた内閣府認定の「大学が核となる高崎元気推進プロジェクト」(2009年7月)の取り組みの一つとして産官学連携事業がスタート
- 2010年1月に高崎食品リサイクルループ協議会を設立。会長に大宮登が就任(食品メーカー、リサイクルプラント、産廃収集業、配合飼料メーカー、大手デパート、スーパーマーケット、ホテル、畜産業、養鶏業、環境コンサルタント、地元大学、メディア)が参加
- 2011年4月に、民間リサイクルプラント(IRM)が稼動。
- 2012年5月に、一般社団法人となる。
- 2015年6月に活動の広がりを受けて、一般社団法人ぐんま食品リサイクルすまいる一ぷ協議会と名称を変更する。

2-2 すまいるーぷの取り組み内容

1. 「すまいるーぷを巡るツアー」の開催と参加

- ①2012年6月に第1回ツアー
- ②2012年8月に第2回ツアー
- ③2013年8月に第3回ツアー
- ④2015年6月に第4回ツアー

2. 著書

- ①「高崎食品リサイクル事業の展開と可能性」(『イノベーションによる地域活性化』日本経済評論社(2013・3)、所収)
- ②『高崎市 奇跡の給食』からすがわ出版(2013・12)

3. レポート等

- ①TOWALレポート「もったいないを合言葉に一循環型社会をめざして」(2013年7月号)
- ②「地域資源に光を当て有効に活用しよう！一循環・定常型社会のなかで」(「構想日本」メルマガ2014年11月号)

4. その他

- ①ラジオ高崎ラジオゼミナールでの紹介ほか



リサイクルループの流れ



廃棄物の分別

[食品関連事業者(食品メーカー、スーパー、レストラン等)] 工夫して売れ残り・食べ残し・残渣など廃棄物を減らすよう努めます。それでも出てしまった食品廃棄物を分別します。



収集・運搬

[収集運搬事業者]
分別後、リサイクル施設へ運びます。
このとき食品関連事業者と協力して、鮮度を維持することが大切です。



収集方法

冷蔵車による運搬で、分別した廃棄物の鮮度を保ちます。
これにより良質な飼料を作ります。



リサイクル処理

[再生利用事業者]
リサイクル施設にて水分や成分を調整、飼料や肥料に加工します。



水分調整

プラントで乾燥する等して水分を調整します。



成分調整

家畜の生育に必要な栄養が配合されます。



飼料/肥料に加工

出来上がった飼料・肥料です。
IRMのプラントでは1日に29トンの量を処理可能です、



リサイクルループの流れ



飼料・肥料の利用

[農畜産林漁業者など]
出来上がった飼料・肥料で農畜産物を
育てます。

[飼料の分析結果を見る \(PDF/5.2MB\)](#)



農畜産物の利用

[食品関連事業者]
農畜産物を食材として利用します。
この食材の地産地消ブランド化も
視野に入れています。



上記を繰り返すのがリサイクルループです。
食品のリサイクルにより循環型社会の実現を目指します。



すまいるーぷを巡るツアー 2015年6月25日



回収車



フレッセイの説明



野菜と豆腐殻



完成前の飼料



IRMの説明



回収されたパン



完成品



三喜鶏園(玉子)



すまいるーぷ食品(フレッシュ小鳥店)



すまいる一歩の取材が始まる 群成舎 芝崎社長



3. 「すまいるーぷ」への期待と展望

3-1 環境負荷の視点

＜廃棄と再利用、遠隔地輸送とコンパクト回収＞

- この活動では、**1kg**当たり**15円**から**20円**で処理費用を払って産業廃棄物として回収され、多くはゴミとして燃やされていたものを、飼料化・肥料化する。これは環境負荷の低減に役立つ。



3. 「すまいるーぷ」への期待と展望

3-2 経済活性化の視点

<飼料代、肥料代、流通・販売>

- この活動は、経済活性化にも役立つ。群馬県にはIRMのような飼料化プラント工場は一つしかない。この事業が順調に推移すれば、もう2～3個のプラント工場が必要となり、雇用も生まれる。また、生産された飼料は販売され、飼料を食べた豚や鶏が成長し、ブランド化された食材の販売活動も含めて、「すまいるーぷ」による地域経済の活性化が期待される。



3. 「すまいる一ふ」への期待と展望

3-3 教育の視点

<環境問題の学習、食料・農業問題の学習>

- 私たちは、毎日の食べ物がどこで、どのようにして、誰によって生産され、集められ、店に陳列され、加工されているのか。その残渣がどのように扱われているのか、目にする機会が減っている。特に、子どもたちは自分たちの食の実態をほとんど知らないまま育っている。私たちは、この活動を食育活動として、食の栄養問題、健康問題と併せて、食品の生産・加工、流通・販売、処理、再利用過程を理解する教育としてとらえて活動を行っていききたい。そのために、「すまいる一ふ巡り」を継続的に実施していく。



大宮研究室の学生&巡るツアーの様子

<3年生>

尾高桃

郭長凱

金井麻未

上岡愛実

甲田ゆかり

志鳥絢香

清水力

宋宜芬

高橋尚之

千葉尉貴



フレッセイ



IRM



IRM



専用車

